

「セカンドステップ」４年間実践しての考察 －佐賀市K保育園年長児をととしての学び－

丹羽ヤエ子

(西九州大学短期大学部 幼児保育学科)

(平成 24 年 12 月 18 日受理)

Consideration Through Four Year Practices Named "Second Step" － Learning of older children at K nursery school in Saga city －

Yaeko NIWA

Department of Early Childhood Education and Care, Nishikyushu University Junior Collage

(Accepted December 18, 2012)

Abstract

This study was brought together the results of the children's learning through four year practices named "Second Step".

In the practice for older children in the period from June to March, the purpose of this practice was that "the children should learn the social skill and they should study intentionally the ability of solving problems and the way for controlling their anger and impulsion". Near the time of their graduation, it has been found that the individual children change and grow in relation to other children.

Also, child care persons share the social skill with the children and they can cuddle up the children's feeling. This is the synergy effects between the children's growth and the skill development for child care persons.

Key word : Problem-Solving Capability 問題解決能力
The Child Who Does Not Go Berserk キレない子ども
Social Skill 社会的スキル
Violence 暴力
Bullying いじめ

1. はじめに

近年、学校での「子どもたちのいじめ問題」は社会問題として大きくとりあげられ、学校でのいじめを苦に自殺する痛ましい事件は後を絶たない。報道されるたびに悲しく悔しく残念に思う。

このような中、筆者が「セカンドステップ」と出会ったのは、2005年「日本乳幼児教育学会第15回大会」での村川・植田(2005)¹⁾の研究発表「幼児教育とセカンドステップ」に参加したのがきっかけであった。

子どもの暴力防止、いじめ防止の領域で、全米はもとより世界に注目されている社会を先取りした教育プログラムである。直後、第22回セカンドステップ研修会に参加した。

附属保育園が認定こども園としてスタートしたので、実践をお願いしたが、「リトミック」を保育に取り入れるとのことで断られたため、市内のK保育園(園長先生が筆者の先輩にあたる)にお願いし、快く了承していただいた。年長児クラスにおいて、4年間の実践をとおしての子どもたちの学びを考察したい。

2. セカンドステップとは

2-1 背景

最近10代の子どもが殺人などの凶悪事件を犯すニュースが後を絶たない。これは、子どもたちが人間関係をうまく結ばず、社会に適応していく力(社会的スキル)が育っていない結果の悲劇である。低年齢化する不登校、暴力、いじめなどの問題にも、このことが影を落としているのではないかと感じる。

これまでは、幼児期に子ども同士が集団で夢中になって遊ぶ中で、欲求をぶつけ合い、体験的にその解決法を身に付けながら成長していくものだと思われていた。けれども、現実には少子化や、安心して遊べる空間や時間の確保が困難な状況で、子どもたちは社会的スキルを獲得できないまま、大きくなっている。

そのために、幼児期に集団の中で、社会的スキルを身につけ、問題を解決する能力と、怒りや衝動をコントロールできる方法を、意図的に学ぶことが必要になってきたのだと言える。

2-2 あゆみ

1979年設立されたアメリカ・シアトル市のNPO法人Committee For Children(CFC)は、最初大人の虐待から子ども自らが身を守る「被害者にならないためのプログラム」を開発した。それに次いで、「子どもが加害者にならないためのプログラム」として作成されたのが教育プログラム「セカンドステップ」で、生きる力

と心を育む教育プログラムである。

2001年には、全米で「最も効果的なプログラム」として、米国教育省(日本では文部科学省に該当する)より最優秀賞を受けた。2001年1月である。

現在、北米の18,000校で約1,200万人の子どもがこの教育を受け、ノルウェー、ドイツ、デンマーク、英国でも、すでに学校で使われている。(現在、東京や大阪の幼稚園、保育園はじめ、東京都内の多数の小学校で使われている。)

2-3 構成

セカンドステップの教材は、4～8歳・小学校1～5各学年・中学生などのレベルに分かれている。

それぞれの段階に応じた教材を使って、子どもが常に考えながら参加できるようにディスカッション、ゲーム、ロールプレイなどでレッスンが進められる。

4～8歳用は、毎週30分、28週間のカリキュラムである。

2-4 目的

「子どもの衝動的・攻撃的行動をやわらげ、社会への適応力を高めること」である。

2-5 理念と適用

「暴力以外の方法」で問題の解決を図ることができるように支援している。暴力的な問題を抱えるクラス全員に1年間予防教育を行うことで、暴力防止の成果が検証されている。

2-6 レッスン内容

セカンドステップは、(4歳から8歳児向け)を取り入れた。教材は、セカンドステップ紹介のビデオ、人形劇用人形、レッスンカード(33枚・A3サイズ)、レッスン補助カード、指導の手引(セカンドステップの指導について、人形劇シナリオ、曲と歌詞、保護者への通信分)、CD、などがある。

①相互の理解……自分の気持ちを表現し、相手の気持ちに共感してお互いに理解し合い思いやりのある関係をつくる。

②問題の解決……困難な状況に前向きに取り組み、問題を解決する力を養って、円滑な関係をつくる。

③怒りの扱い……怒りの感情を自覚し、自分でコントロールする力を養って、建設的に解決する関係をつくる。

の3本柱からなっている。

第1章：相互の理解、レッスン1：約束(ルール)づくり、レッスン2：気持ちⅠ、レッスン3：気持ちⅡ、レッ

スン4：同じ気持ち・違う気持ち、レッスン5：気持ちは変わる、レッスン6：もし…したら、レッスン7：今は…でもあとでなら、レッスン8：「うっかり」と「わざと」、レッスン9：フェアとは、レッスン10：自分の気持ちを伝える、レッスン11：よく聴く、レッスン12：友達を思いやる、第2章：問題解決、レッスン1：落ち着いてゆっくり考える、レッスン2：どんなことが起きているか、レッスン3：何ができるか、レッスン4：どれをするか決める、レッスン5：結果はどうだったか、レッスン6：いっしょに使う、レッスン7：順番にする、レッスン8：交換する、レッスン9：集中する、レッスン10：行儀よく話しかける、第3章：怒りの扱い、レッスン1：怒りを自覚する、レッスン2：落ち着く、レッスン3：ケガをしたとき、レッスン4：悪口を言われたとき、レッスン5：横取りされたとき、レッスン6：ほしいものがもらえないときの28レッスンある。

2-7 1回のレッスンの流れ

①導入（歌、ゲーム、人形劇）、②お話とディスカッション（レッスンカード）、③ロールプレイモデル（先生がやってみせる）、④ロールプレイの演習（子どもがやってみせる）、⑤話し合い（振り返り）、⑥日常への展開（日常生活で実際に応用）です。1回のレッスンは30分程度である。このあと、レッスン内容と合う絵本の読み聞かせをする。

歌には、「わたしの気持ち」6番まで、「できた！」5番まで、「おちついて」4番までの3曲がある。人形は「あわてん坊ワンちゃん」、「ゆっくりカツムリさん」があり、「うさぎさん」は意見を言う子どもに持たせる。「うさぎ」を持ちたいので、意見を言う子ども中にはいる。人形劇をするのには、人形劇シナリオが1から8まである。

3. 方法、手続き

佐賀市のK保育園年長児クラスを対象に実践した。平成20年度、男子13名・女子8名・合計21名（担任は本学卒業生）、平成21年度、男子8名・女子15名・合計23名、平成22年度、男子11名・女子9名・合計20名、平成23年度、男子10名・女子12名・合計22名（平成22年度と同じ先生）で、4年間の継続で実施した。

毎年、年長児クラスで実施し、4月は新学期で保育室や担任が変わり、子どもたちも不安定な時期なので、4年間共に5月より開始した。毎週木曜日の10時を予定し、筆者の都合と保育園側との保育予定や行事等を合わせながら進めると、28回レッスンが年度末の3月で終了し、1年間を通した「セカンドステップ」指導ができた。

最終レッスン時に、子どもたちにおちつくステップの写真（ぬいぐるみ）入りと、「セカンドステップおもし

だしてださいね」資料¹⁾、保護者には「セカンドステップとは？」（背景・あゆみ・厚生・内容）の印刷物をプレゼントした。

村川（2007）²⁾は教育プログラム「セカンドステップ」の教材の展開のバリエーションとして絵本の研究もしている。村川は「日本で創作、翻訳出版されている絵本の中から、セカンドステップのレッスンの充実と展開をはかる絵本を選ぶために、事前に毎回のレッスンの内容と子どもたちの状況などを考え、絵本を選ぶ。＜選ぶ条件＞総合的には第1章「相互の理解」、第2章「問題の解決」、第3章「怒りの扱い」というセカンドステップ各章のテーマに沿っていて、絵本として楽しく、質の良いものを選ぶ。①セカンドステップのその日のレッスンを深めたり、理念に沿うものであること。②26名前後のクラスに読むにあたって、子どもが楽しみ、理解できる質の良い絵本であること。③園の子どもたちが園文庫や家庭、図書館で繰り返し読むことができる現在出版されている絵本であること。④レッスンの1回の所要時間は30分前後であるから、プログラムにおいて絵本のしめるバランスを配慮する。」とし、次のような絵本を紹介している。

レッスンで取り上げた絵本{レッスンテーマ・絵本（書名・作者・画家名・出版社・出版年）}、第1章「相互の理解」レッスン1 約束（ルール）づくり「かばくんのふね」岸田衿子作／中谷千代子絵、福音館書店、1990、レッスン2 気持ちⅠ「もしやもしやちゃん」マレーク・ペロニカ文・絵／みやこうせい訳、福音館書店、2005、レッスン3 気持ちⅡ「けんけんとびのけんちゃん」角野栄子作／大島妙子絵、あかね書房、1995、レッスン4 同じ気持ち・違う気持ち「ここにいたい！あっちにいたい！」、レオ＝レオニ作／谷川俊太郎訳、好学社、1977、レッスン5 気持ちは変わる「ポリボン」マレーク・ペロニカ文・絵みやこうせい訳、福音館書店、2005、レッスン6 もし…したら「ラチとライオン」マレーク・ペロニカ文・絵／とくながやすもと訳、福音館書店、1965、レッスン7 今は…でもあとでなら「わたしのねこちゃん」かなりまさこ文／荒井良一絵、福音館書店、2003、レッスン8 「うっかり」と「わざと」、「あくたれラルフ」ジャック・ガントス作／ニコール・ルーベル絵／石井桃子訳、福音館書店、1982（童話館出版）、レッスン9 フェアとは「ノントンぶらんこのせて」おおともやすおみ・おおともさちこ作・絵、偕成社、1976、レッスン10 自分の気持ちを伝える「しろいうさぎとくろいうさぎ」ボガース・ウイリアムズ文・絵／松岡享子訳、福音館書店、1965、レッスン11 よく聴く「ぼくのあおいふね」ピーター＝ジョーンズ文／デイック＝ブルーナ絵／ながわけんぞう訳、偕成社、1986（絶版）、「ひなどりとねこ」（お話）、レッスン12 友達を思いやる「とんことり」筒井頼子作／林明子絵、福音館書店、1989、第2章「問題の解決」、レッ

スン1 落ち着いてゆっくり考える「サラダでげんき」角野栄子作／長新太絵、福音館書店、1981、レッスン2 どんなことが起こっているか？「がんばーさんのふなあそび」ジョン・バーニング作／みつよしなつや訳、ほるぶ出版、1976、レッスン3 何ができる？「エンとケラとブン」いわむらかずお作・絵、あかね書房、1982、レッスン4 どれをするか決める「ちいさなヒッポ」マーシャ＝ブラウン作・絵／内田莉沙子訳、偕成社、1984、レッスン5 結果はどうだったか？「スイミー」レオ＝レオニ作・絵／谷川俊太郎訳、好学社、1969、レッスン6 いっしょに使う「ぼくのだ！わたしのよ！」レオ＝レオニ作・絵／谷川俊太郎訳、好学社、1985、レッスン7 順番にする「ノンタンぶらんこのせて」（前掲）、レッスン8 交換する「そらいろのたね」なかがわりえこ文／おおむらゆりこ絵、福音館書店、1964、レッスン9 集中する「がんばれさるのさらんくん」中川正文作／長新太絵、福音館書店、1958、レッスン10 行儀よく話しかける「こすずめのぼうけん」ルース・エインスワース作／石井桃子訳／堀内誠一画、福音館書店、2005、第3章「怒りの扱い」レッスン1 怒りを自覚する「かいじゅうたちのいるところ」モーリス・センダック作／神宮輝夫訳、富山房、1975、レッスン2 落ち着く「おこりんぼフンガくん」国松エリカ作、小学館、2003、レッスン3 ケガをしたとき「ノンタンいたいのとんでけ～☆」キヨノサチコ作・絵、偕成社、2004、レッスン4 悪口をいわれたとき「おねえちゃんたらもう」クリス・ラシュカ作・絵／泉山真奈美訳、偕成社、1998、レッスン5 横取りされたとき「9ひきのうさぎ」せなけいこ作・絵、ポプラ社、2004、レッスン6 ほしいものがもらえないとき「きんのさかなのものがたり」プーシキン作／コナシェヴツ絵／いじゅういんとしたか訳、新読書社、1983で、筆者も参考にした。「ぼくのあおいふね」、「がんばれさるのさらんくん」、「おねえちゃんたらもう」、「きんのさかなのものがたり」を本学「図書館」で探してもらったが見つからなかったので、「かばくんのふね」や「ケンケンとびのけんちゃん」（レッスン3と同じ）、「どうしたらいい、ブルーカンガルー？」などを読んだ。

4. 年長児クラス担任への聞き取りと質問

1年目（平成20年度）は、実践を毎回ビデオに録画した。クラスの子どもたちはとても元気がよく、床に体操座りで実践した。担任M先生は本学卒業生で、ピアノが得意で歌はCDではなく、M先生のピアノ伴奏で歌った。お昼の給食の時間もCDを流してもらったので、歌を6番まできれいに覚えていた。

また、生活発表会では「わたしのきもち」の歌を発表したそうである。毎回、保育室の戸を開けると、子ども

たちが寄ってきて、「待ってたよ」といつてくれた。毎回楽しみに待っていると担任より聞いた。

2年目（平成21年度）のクラスは落ち着きがなく、多動の子供が数名いて、5月から数カ月は筆者もたいへんであった。しかし、回を重ねるごとに少しずつ落ち着きはじめ、集中力がなく、うろうろする子も少なくなってきた。担任からの言葉を記載する。{元々、荒れている子どもたちでした。1歳児から2歳児と、噛みつき、ひっかき等トラブルが多く、また、長時間保育の子どもが多く、「僕の気持ちを解ってよ」と訴えているように見えていました。年長児になり、アピールの方法が良くわからない子どもたちは、大きなアクション（集団に参加しなかったり、大声を出したりなど）で訴え、このままでは学級崩壊になるのでは…と思うようなクラスでした。一人ひとりの気持ちに寄り添う保育を心掛け、「大好きだよ」、「そのままのあなたでいいんだよ」という気持ちを表現していくようにすると同時に、毎週1回のセカンドステップで、自分の気持ちの表わし方、相手の気持ちを表情や言葉、姿で理解することを学び、少しずつ変わっていききました。

その場に応じた声かけが苦手な子どもたちでした。少しずつ、「こんな時は、こういう風に言うんだよ」、「ほら、悲しい顔してる」などと、コミュニケーションの方法が身についていったように思います。現在小学生になり、時々会う子もいますが、皆、やさしく、そして、新しい友達も沢山いるようです。}であった。

3年目・4年目は筆者より、セカンドステップを通しての子どもたちの育ちや担任の気づき等について質問した。その担任の回答を載せる。

3年目（平成22年度）質問1、子どもたちは楽しく参加できましたか（1年間をとおして）…セカンドステップのある日を楽しみにしていた。先生が来られることを伝えと、準備して待つことができた。毎回のレッスンカード（写真）、ぬいぐるみ、絵本と、期待できる内容であったし、後半には、机や椅子の準備が自分たちで出来るようになった。

質問2、友達同士のやり取り（遊びの中）での気付きについて…行動する時、相手の立場で物事を考えることが見られるようになった。「〇〇ちゃんは、△△だからそうするんだよ」など、行動の奥まで考えている子がいた。家庭環境もあると思われるが、卒園間近になると、友達関係もはっきりしてきて、冷静に判断できるようになってきた。また、自分たちで遊びのルールを作り、それに反する者がいると“ダメだよ”と注意し合う姿がよく見られるようになる。

質問3、1年間の子どもたちの育ち、変化についての気付き（社会に適應する行動方法を学んで）…年長になった直ぐはトラブルが多く、言葉ばかりでなく手が出るこ

とも多くあった。時には、取っ組み合いの喧嘩が見られることもあり、自分の気持ちをぶつけ合う姿が見られた。仲間同士のつながりが深くなるにつれ、譲り合ったりかばい合うなど、自己中心的なところから、協調性が見られることも多くなってきた。喧嘩早い子が、気持ちを抑える姿も見られて、成長の変化に驚かされた。夏頃には、お互い思いやる気持ちも見られ、活動が続いている子のおやつ準備（おしぼり・水筒）をしてくれたりしていた。保育士が伝えることなく自分たちで気遣い、行動していた時もあった。状況判断ができ、お互いの気持ちを組み取りながら活動することができていた。

質問4、「扱いにくい子」の1年をとおして…「Rくん」→身の回りのことができず、注意されることが多い。部屋から出て勝手な行動が目立っていた。出席シールの貼る場所が分からない。言葉をはっきりせず、言っていることがよくわからない。順追って話すことができず単語が多い。すぐに手が出て相手を押しのけ横入りするなど、ルールを理解していない。集団で遊ぶより一人遊びが多い。セカンドステップにおいて、常に手を挙げ発言するものの、質問に対しての答えとならず、意味が通じていない。発言した後は、人の話を聞かず私語が多い。態度も良くない。返事は1回“はい”と言われても、“はい・はい・はい”と何度も言う。

セカンドステップの21回目の頃より、少し落ち着き、発言もあまりしなくなった。状況が読み取れるようになってきた。時々出る発言が的を得るようになってきた。クラスの中でも、集団にいたることができるようになり、目立った行動がなくなってきた。25回目の頃からは、落ち着いた発言となる。クラスの中での生活にも変化が見られるようになり、集団遊びの中に入ったり、クラスのみなどと遊ぶ楽しさがわかってきた。

「Mさん」→自分の思いを最後まで発言することはなかった。劇遊び時には、4歳児時より随分成長がみられ、はずかしがることなくセリフを言えていたが、思いは伝えられない。保育士も気に入った保育士であれば、気持ちを表情豊かに伝えているが、それ以外は、表情、心ともに硬い。

質問5、子どもたちの1年間の言動について（特に攻撃的な言動の背景から）…「Rくん」→遊びに集中すると乱暴な言葉使いとなり、特に激しく責め立てるような言葉を使っていた。クラスのリーダー的存在でもあり、機転が利く。自己主張が強く、言葉の端々にも強さも見られ、トラブルも多かった。8月頃、共同作業の楽しさが分かった頃から協調性、思いやりがみられ、できることに対して控えめな姿が見られるようになった。自分が一通りの活動をする、後は手伝いに回り、他の子の力になることに徹する姿が見られるようになった。

「NさんとMさん」→お互い仲が悪く、何かと口げん

かをする姿がみられる。Mさんは神経質なところがあり、正義感も強く、教えられたことを忠実に守ろうとする真面目さがある。人の気持ち、思いやりも人一倍あり、時には心痛してしまうところがあるので、Nさんのマイペースが許せない。Mさんはそうであっても、自分の気持ちや思いは、的確に伝えはっきり言っている。正しいと思うことは曲げない。

「Kくん」→理解力もあり、素直で活発ではあるが、自信がないところがあり、活動の際には必ず再確認、再々確認するほど慎重であったが、少しずつ落ち着き、友達に対しても意地悪なことを言わなくなったし、安心して活動できるようになった。友達関係も良くなり仲間遊ぶことができるようになる。

質問6、「セカンドステップ」から、先生自身の学びになったものはありましたか？

日頃接している子どもの姿を客観的に見ることができ、さらに表情、言動を冷静に見守っていく時間が持て、とてもよかったと思う。

子どもの変化、成長も見守ることができた。自分だけでは、どうしても視野が狭くなってしまいが、スキルを身につけることで自分の保育に役立て、さらに、ロールプレイすることで、子どもと共に学んでいける。思いやりの気持ちと簡単に言うものの、「セカンドステップ」により表情から、読み取っていく方法を見出すことで、さらに、人間関係を良くしていくものを学ばせていただいた。今年度（年長クラスを続けて担任）は、昨年度を踏まえ、きちんとした記録をつけながら、子どもの変化を見守ろうと思っている。特に女の子の多いクラス、保護者が育児に熱心であるため、自分自身しっかりと把握しておき、的確な保護者対応に役立てていきたい。

4年目（平成23年度）質問1、1年間を通して、子どもたちは楽しく参加できていましたか？…毎回、先生が来られるのを楽しみにしていて、当日の朝は、自分たちで机、椅子の準備をする姿も見られていた。手を挙げて発表するときに名前を呼んでもらえるように名前札を準備すると、はりきって参加する姿も見られた。ただ発言するのは発言するが、自分の考えを言わない子はほとんど発表することはなかった。後半になり、今までほとんど手を挙げることのなかった子が、手を挙げ発言する。手を挙げるなど積極的になっていた。

質問2、友達同士のやり取り（遊びの中）での気づきについて…第2章レッスン1以降、子ども同士の関わりの中で“落ち着いてゆっくり考えよう”という言葉がよく出るようになってきた。最初は、どこに使うか理解できずただ遊びの中で使われていたが、1月に入った頃から、実際トラブルが起こったときに仲裁として使われるようになった。4月当初は、何かにつけ担任の方へ解決方法を求めてきていたが、仲裁人（世話好きな子）が入

り自分たちで解決しようとする姿がみられた。

ごっこ遊びの中や保育の中で意見を言うと“はい・はい・はい”と手を挙げている子に対して、“「はい」は1回でいいの”と言っていた。

仲良しの女の子のトラブルが絶えずあり、時には、親が出てくる場面もあった。後半頃から、それぞれが他の友達と仲良く遊ぶ姿、一人で落ち着いて遊ぶ姿が見られるようになった。自分の好きな遊びを選んで好きな友達と遊びを共有する楽しさが分かってきた。

質問3、1年間の子どもたちの育ちの変化についての気づき（社会に適応した行動方法を学んで）…進級した直ぐは些細なトラブルが多く、なおかつ、保護者の手出しも多く、時には、トラブルを家庭まで持ち込み、親同士のトラブル姿や苦情もあった。行動する場合も“〇〇していい？”と一つ一つ確認して動いたり、支持を待ってからの行動をするなどの姿が見られていた。担任に対して訴えてくることが、親・子、共にあり、大変なクラスと感じられた。まずは、人の話をよく聞いて動くことから始め、人が話しているときは、静かにすることを守るよう伝え続けた。していいことの判断、他の子の行動を観察する力、善悪の判断はどこでするのか考えることを、一緒に考え知らせていくことで、次第に身について、落ち着きがみられるようになった。目に余った行動をする子に対して助けを求めてきた場合は、逆に“どうしたらいいの？”解決方法を問うことで考える機会をつくると、“〇〇したら、”など、自分の意見や考えをまとめて言えるようになってきた。

質問4、「扱いにくい子」の1年を通して…発言、自分の考えを人の前はもちろんのこと担任の前でさえ言おうとしなかったY君、何をするのに時間もかかり、保育士、友達の手助けが必要であった。「セカンドステップ」に参加するものの、殆ど発言はなく、当てられても首をかしげるだけで終わったりしていた。要求に対しては、必ず言葉で表現することを伝え、してもらうと感謝の気持ちを言うように伝え続けた。自分の気持ちを言葉で表現することが殆ど見られなかったが、運動会で走ることが速いことを認められたことで、表情もよくなり、「サカンドステップ」特に、自ら手を挙げている姿がみられるようになった。卒園まじかになると、グループ活動の際、グループの中で意見を言っている姿も見かけられた。

質問5、子どもたちの1年間の言動について（特に攻撃的な言動の背景から）…（事例）T君→クラスの中で乱暴と思われがちな子ではあるが、本来気持ちが優しく活発な子だった。最初「セカンドステップ」参加時は、自分の考えがまとまらなくても、質問に対して適切な答えではなくても、手を挙げ意見を言っていた。周りの子から“違うよ”と言われつつも、聞き入れることなく、自分の考えを伝えていたが、3・4か月頃から違うと感

じることができ、状況判断が少しずつできるようになってきた。行動面では、自分の気持ちを抑制することができずにいる面も見られてはいたが、話を聞く態度が少しずつ良くなってきてからは、落ち着きが見られるようになってきた。

質問6、「セカンドステップ」から先生自身の学びになったこと…問題が生じた場合、子どもに考えさせるより早く解決方法を伝えていたが、「セカンドステップ」を学ぶことでスキルを身につけることができた。毎日の生活の中で子ども達が自分の気持ちを言葉で表現するよう働きかけた。そうすることで、子どもの本来の姿が見えてくるようになった。①みんな違っていてもよいという接し方（今、興味がなくてもいつか興味を示してくれればよい）、②子どもの気持ちの変化を認めることの大切さ（〇〇はできなかったけど、今はできるようになった・嫌いだったけど、好きになった）、③相手の立場を考える。④僕は、私は、から始まる言葉の大切さ。子どもと一緒に考えることにより問題を共有することができ、さらに子どもの気持ちに寄り添うことができるようになったとの回答をもらった。

5. 考 察

「セカンドステップ」の指導にあたっては、子どもたちの意見を尊重し、すべての意見を受け入れ「そんな考えもあるのね」と受容することから始まる。子どもの表現や意見に、評価をするような言葉かけや意見は言わない。

また、レッスンカードや人形劇のセリフ、歌、絵本の読み聞かせと、教材の予習をする時間が大変であったが、楽しみにしていてくれる子どもたちの顔が原動力となり4年間継続することができた。

村川は、「子どもの日常生活の具体的な状況に即して体系的に人間関係の関わり方、問題解決の方法をセカンドステップで学ぶことは、家庭生活、地域支援、教育現場における集団生活において子どもの遊びや学習の充実につながると考える」としている。K保育園の保育士たちも1年間の子供たちの人間関係について、セカンドステップの効果は認めている。長櫓（2006～2008）^{3) 4) 5)}は子どもの「キレル」現象に関する研究をおこなっている。

小学校5年生と小学校6年生の質問紙調査から、キレた時の状態での出現率の多さはどちらも「攻撃的状态」、「言動の変化状態」、「自己制御不能状態」の順で上位3位が占められたとして、「キレル」現象は小学生でも十分あり得るとしている。セカンドステッププログラムは、子どもが健全な対人関係を育み、さまざまな場面で問題解決を養っていけるようレッスンプログラムが計画されてお

り、これを指導する大人が、子どもにとって生きた良いモデルになっていくことが大きな目標となっている。日本では保育所、幼稚園、児童養護施設、児童相談所、小学校、親子塾で普及している。2007年より東京品川区内すべての小学校の1年生がセカンドステップを実施したことをはぎりに、全国の小学校へと広がっている。

K保育園の保護者の方からも「ものすごくいいものです、今の時代に必要なものです」と言っていた。宮崎⁶⁾は「セカンドステップの効果：品川区の効果測定（中間報告）」を出している。また「セカンドステップの効果：品川区における1年半後の効果測定」を発表し、実施校の有意性を証明している。

セカンドステップを実施して、子どもたちも対人関係のスキルを少しずつ身につけていき、また、保育士自身の保育技術の向上と学びもあり、相乗効果も大きかった。将来的には佐賀県の小学校でも取り入れてもらえたらと願う。

謝辞 本稿執筆にあたり、4年間の「セカンドステップ」実践に協力いただきました、佐賀市の開成保育園園長先生はじめ、年長クラス担任であった前田先生、田中先生、中村先生（2年間）に感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 植田都、村川京子：幼児教育とセカンドステップ、日本乳幼児教育学会第15回大会研究発表論文集、p86

～p87（2005）

- 2) 村川京子：セカンドステップにおける絵本の役割、日本保育学会第60回大会論文集、p1428～p1429（2007）
- 3) 長櫓涼子：子どもたちは「キレル」現象を如何に捉えているか—小学校5年生・6年生の質問紙調査紙から—、日本乳幼児教育学会第16回研究論文集、p90～p91（2006）
- 4) 長櫓涼子：子どもたちの「キレル」現象の捉え方についての一考察—小学生と中学生の質問紙調査の比較より—、日本乳幼児教育学会第17回大会論文集、P78～p79（2007）
- 5) 長櫓涼子：子どもの「キレル」現象に関する情動の類型化、日本乳幼児教育学会第18回大会研究論文集、P50～p51（2008）
- 6) 宮崎 昭：セカンドステップの効果：品川区の効果測定（中間報告）、N ewsletter, N P O 法人・日本こどものための委員会発行、第21号（2008,3）
- 7) 宮崎 昭：セカンドステップの効果：品川区における1年半後の測定、N ewsletter, N P O 法人・日本こどものための委員会発行、第22号（2008,6）
- 8) ミネルヴァ書房：発達、117号、p20～p22（2009）
- 9) ちゃいるどネットO S K A：大阪保育子育て人権情報研究センター情報誌、第71号 p4～p10（2006）
- 10) NPO 日本こどものための委員会：キレない子どもを育てるセカンドステップ（2006,4）

<セカンド・ステップ>おもいだしてくださいね

★おやくそく

- ① いたいときには $\square$ をあげる
- ② うごきまわらない
- ③ しずかに きく
- ④ はなしているひとを $\square$ でみて、みんなの $\square\square$ できく

★おちつくステップ

- ① 3かい しんこきゅうをする
- ② 5まで ゆっくりかぞえる
- ③ 「おちついて」と じぶんにいいきかせる

★もんだいのかいけつ（なにができるか）

- ① どんなことが おこっているか
- ② なにができるか
- ③ もし「～」するとしたら どうなるか？
- ④ どれをするか きめる
- ⑤ けっかは どうだったか

★こうかん するとき

- ① よろこぶものを さがす えらぶ
- ② 「これと とりかえてくれる？」と きく

★ 「うっかり」と「わざと」

①「うっかり」したときは、「ごめんなさい、わざとじゃないよ」と、あやまる。

★じぶんの きもちをつたえる

「わたしは… / ぼくは…」のいいかたで、じぶんのきもちをつたえる。

★よくきく

はなしをしているひとの☒をみたりして、はなしをよくきく。

★ともだちを おもいやる

ともだちを 「おもいやる」「ちからになる」「たすける」

★いっしょにつかう

①「わたし（ぼく）も～がすき」といって、じぶんのきもちをいう

②「いっしょにつかってもいい？」といって、たのんでみる。

★じゅんばんにする

①「つぎにかしてね」といってみる

②じゅんばんをまっているあいだ、なにかほかのことをしてもよい

★こうかんする

①そのひとが、よろこびそうなものをえらぶ

②「これととりかえてくれる？」ときく

★しゅうちゅうする

①はなしをしているひとをみて、きく

②じゃまをするひとをみないこと

★ぎょうぎよく はなしかける

①はなしがすこしとまるまで しずかにまつ

②「いま ちょっといいですか？」ときく

③いいたかったことを はなす

★ケガをしたとき

①おちつくこと

②じぶんのきもとをつたえる

③「ごめんなさい」とあやまる

④「わざとしたのではない」とあやまる

★わるぐちをいわれたとき

①おちつくこと

②「わたしはかなしい」「わたしはおこっているよ」と、じぶんのきもちをつたえる

③「やめて」という

★よこどりされたとき

①おちつくこと

②「わたし / ぼくは、おこっているよ」とじぶんのきもちをいったり、「やめて」という

③「いっしょに つかおうよ」または「じゅんばんにしようよ」という

★ほしいものがもらえないとき

「おちつくステップ」をして、かいけつできそうか かんがえる

◎ 1ねんかん、セカンド・ステップのおはなしをよくきくことができましたね。

なかむらせんせいも、にわせんせいも うれしくおもっています。

しょうがっこうでも「セカンド・ステップ」わすれずに、つかってください。

にしきゅうしゅうだいがくたんきだいがくぶ にわ